

LEONTODO

1970. JUN. N-ro 42

Organo de Hokkajda Esperanto-Ligo

La 34-a Hokkajda Kongreso en Tooja
(第34回北海道エスペラント大会 御案内)

次のとおり上記大会を開催します。

万障繰りあわせの上、御参加下さいますようお願い申し上げます。

1. 日時 8月8日(土) 17時～19時 交流会
8月9日(日) 9時30分～13時 大会

2. ところ 虻田町洞爺湖温泉 "グランドトーヤ"

3. 参加費 2,300円 (宿泊1,300円、交流費500円
昼食費200円、写真200円、準備100円)

4. 送金 「振替 小樽11845 北海道エスペラント
大会準備会」へ6月30日迄着くように
お送り下さい。

昭和45年5月20日

北海道エスペラント連盟
第34回北海道エスペラント大会
準備委員会

※ 大会事務局：室蘭市高砂町1丁目43番12号 須藤昭三
なお、事務局は大会当日、「グラントーヤ」に移動します。

日本大会（第57回）声のたより好評

「これが大会だ」を合言葉に準備をすすめている高槻の日本大会。こゝは東海道線急行電車では万博のまち茨木のとなり、万博訪向を計画される方は、ぜひこの時期（7月25～26日）に。今回準備委員会では「声のたより」テープを出した。内容は、練習中の高槻少年少女合唱団（出演予定）、多彩な催しの説明、幼児連れの方のための保育所のこと、S-ro 竹内義一のFestparolo 予告など。事務局（苫小牧）と札幌にひとつあり、希望の向きにはお貸ししますのでどうぞ。

TEJA 焼津合宿に参加して

星田淳

四月のある日、東京のS-ino田中（eksf-ino 下生、元苫小牧ESP会員）を通じ、「TEJA（東京青年ESP 連合）の芹沢委員長が、焼津合宿の講師をお願いしたいといっている」と聞いた時は、まさかこんな遠いところから……と思ったものだったが、丁度一有講習会を展開中のTEJAのもようを知りたい気もあって、参加と決定。会場焼津青年の家は、太平洋に面して長くつらく防潮堤のすぐ内側。5月2日午後ついでみると参加者が受付に群がり、壁にはクラス割り、室割り、各担当氏名や各種広告が一杯、売店も営業中、活気あふれていた。中級を担当するS-ro 川口（3月迄札幌ESP会員）の姿もみえた。後報によれば参加者総数137名、例年に比べて少ないそうだが

工度電國でも同様な合宿をやっている影響らしい。日本の ESPERANTUJO は、全国規模の合宿を二つ同時に行うだけの力をもつに至ったわけだ。

クラスは入門2、初級5、中級5、上級5、Seminario 4の計21クラス。私は Seminario のひとつを受持たされた。他の講師にいい *teksto* をさらわれてしまっているの、ひとつ後らほいいもので、C. Rossetti の *Kredum sinjorino!* のさわりの部分9ヶ所24頁を TEJA にコピーしてもらった。私のクラスはクラス分けの試験でも80人以上の人とのこと、読んでも話しても実力ある人ばかり。だいたい *Tute esperante* を通したが、今後のこのような催しについて色々考えることができた。

オ一日夜、JEE 初級学カテストと並行して五つの分科会が行われた。私は「東京地区一斉講習会の成果と教訓」に出席した。内容は別記事にのべるが、KLEG（関西連盟）に始まり、北九州に広がった一斉講習会が、今年は名古屋、東京で大規模に行われ、ESP、運動もいよいよ組紐といえる活動に入った感じ。尚、参加者による各地の報告もあり。関西連盟からは、今年の日本大会の地方会活動家分科会は、KLEG、TEJA、RH (Rondo Harmonia) の活動報告を三本の柱とするとのこと。

オ三日(4日)午後の公開討論会、テーマたるや "*Ĉu la geedziĝo inter junaj esp-istoj estas rekomendinda?*" ときた。賛成、反対各2名 of oratoroj をおき、双方各2 atestantoj を換向できるという形式。Esp.による討論を *komencantoj* に示すのが主な目的なので、討論内容は実はどれ程まじめなものではなく、従って「弁士の主張は必ずしも本心からのものではないので…」と前おきさせられた(議長星田) atestantoj にも *Ges-roj* 大度のように夫婦で *por, kontraŭ* と分れたのもある。賛成例の

方が論旨に筋がとおっていたが、"Vidi tiujn maljunulojn. Ili jam ne havas esperon edzigi..." ときめつけられた反対派(確かに maljunuloj が多かった) 普しまぎれの迷論を展開、その四苦八苦の強弁に同情してか aliskultantoj の表決(per manlevo)では 23対28で kontraŭ側が支持された。

ついで弁論大会。10人の oratoroj が次々と立ったが、今年も一位は高校生がとった。弁論ならぬ原稿朗読やボソボソ話しが一般的な尺矣。

4日夜野散前夜のキャンプファイヤ、夕食後のフォークダンスとひと汗のめど、海岸へ。TEJA-estraranojによる炭火の奇妙な ceremonio ののち火を囲んで各grupo の出しもの"焼津海岸の集団ラブラーション"、"集団結婚式"、"Zamenhof partoprenas kunloĝadon" 等を爆笑とついで爆笑のうち降り始めた小雨とともに時雨。最終日午後の同会式では各クラス代表、講師が交替に立ってあいさつ。「この会場で、あれが一番よかった」という人もあった。入札クラスも含め tute esp-e. "Si estas ĉarma kaj bela. Ĉu S-ro Ooba scias tion?" とは S-ino Ooba のクラス(入札)の生徒のあいさつ。KLEG-anoのあいさつには必ず Ĝis revido en Takacuki! が終りに入る。大会宣伝には大いに力が入っていた。

TEJA - 齊講習会の成果と教訓

(5月3日、焼津合宿の分科会より) 札

TEJA委員長 S-ro 芥沢潔、「昨年の日本大会で TEJA の人材、組織力の不足を痛感した。一方全国組織問題が毎年話し合われているが、それだけに終わっている感じで、地方の活動はバラバラ。地域活動に転機を与える出発点としたい」と冒頭

のあいさつ、ついでに同会のS-ro 認岡、財政担当のF-ino
南島、guidantinoとして殺えたF-ino 駒池から交々報告。

-----東京都内19ヶ所の会場に192名を集めて続行中だが、
作戦本部となつてESPERANTO-DOMO(現TEJA事務所、
千代田区四番町2-1のアパート)を借りるため有志が年末手当
から一万円ずつ出しあつて家賃(月2万円)、電話代にあてる等
思い切ってやった。ポスター1000枚、チラシ中1200枚、小
2000枚を印刷、外に各コンド独自で15000枚位をまいた。
受講生は何によって講習会を知ったかアンケート結果次の
とおり。

ポスター23.5%、新聞10%、ラジオ9%、友人知人38%、
ESP会関係9%、チラシ9%、その他1.5%

ポスター、チラシの効果はわかりぬ。又内部的にも、esp-
istoとして共同の仕事に参加している自覚をもたせ、団結を強
める。ポスターはる場所が見つからず、遂に夜間電柱にぼるゲ
リラ戦となり、Policianojにしばられたり、もっとうまくやれ
とはげまされたりの一幕もあった。

—TEJA会員の四割位はこの催しのため何かの役割について
働いた。

—準備をすすめるうち、会員からだんだん要求がでてきて、
会話教室、コンド交流、講師養成講座、常識講座、研究講座な
どの要求が出、次々に行われた。

(欠陥、成果) 実際やってみるといろいろ勉強になった。それだ
りでもよかったと思う。連絡、準備の手違いで開講当日講習用
書も辞書もない所があつてあわてたり、一緒に仕事してみると
お互の人間がよくわかつたし、会員ひとりひとりの成長も著し
かった。

(モニター制)のお講習の運営についてはモニター制が注目された。これは初等を終えてそう向のない者に、受講生を割当て分担させ、世話、指導させるもので、守郡宮大、RHなど似た方法をとった事もあるが、今回TEJAはこれを本式に採用した。このためモニター向け講座も開いているが、S-ro福田正男によると、モニター制は、伊東三郎によって中央労働学院で始められたとの事。

雑 感

星田 高

★久しぶりに関東、関西にわたる gesamideanoj に会って、ESP界の最近の騒動が来ていることをつくづく感じた。人すべて年をとる、若い後継者がのびて来なくては、何でも、気が見えてくる——あどがつつかない。

★TEJAは急ぐにアウティング。市ヶ谷のESPERANTO-DOMOは空一面の予定表、本の広告、各委員名、講習会場名入りの多くの連絡ポスト、更によく利用されているらしい隻本のlibrobreto——若内外19ヶ所の一斉講習会たゞ今進行中(5月14日)

★68年5月のJEI協議員会では各地から junuloj と veteranoj の間がしっくり行かないとの訴えが出ていた。これが初めてではなかったが、この度から目立ってきていたようだ。東京ではJEIに本拠をおくTEKが名目のみの組織であるのに対し、青年の力でのびた千駄ヶ谷、目黒その他が活動し今のTEJAをとりあげた。

★一方関西、東海で少し別な動きは Rondo Harmonia、ESP界の紅衛兵的行動(?)というむきもある程、活動的だったが、一方既成組織を無視し、それに対抗的だとして、各地で反撥や混乱

も起した。RH運動のプラスマイナス面については諸説あるが、
まだ結論をだせる段階ではないようだ。

★ RHに刺激され KLEG の会員倍増という効果—という大阪の
進藤誠太郎説に対し当の KLEG は「とんでもない」と否定する。
しかし災を転じて福にはできぬか。安易になれていると何かの
危機感を感じる迄—生かぬめいになれない—という事もある。

★ 焼津合宿での岡山 RH 出身の juna samideanino の発言に印象
に残った。「…… RH の学生たち、とても熱心に動いてますけど
学力は低くて、komencantoj の一寸した質問にも答えられない
ことがあります。一方関西に大きな組織として KLEG がありま
すが、そちらの人たちは、学力も経験も充分だけど語句がない
と思うんです。経験少ないが、ひまとやる気のある学生たちを、
既成組織の経験ある人々が助けて、お互に協力できればスバラ
シイと思います……」

★ TEJA の結局 JEI を集会所として使いにくくなったため（日
曜・夜間の使用制限）と仮定して独立の活動をやらざるを得な
くなった。この背水の陣、危機感が、或は、一斉講習会への、
ひとつの拍車ともなったか。かつて（1950年）当時の名目上の
全国組織 JEA は、JEI に事務所貸与をことわられて、あえなく
つぶれたが、今の TEJA は自ら道を開く vivkapablo をもっている
事を示した。

★ さてところで北海道では？ やはり量と日に未だ格段の立
ちおくれを感じざるを得ない。10頁の Novajoj—を讀めばよくわか
る。ただ北大を中心とする札幌の ESP-ISTOJ が FESS を総成、運動
を進め、8月の北海道大会に先出って支笏湖で合宿を行うなど、
長かった Studenta Esp. Movado の空白を埋めるものとして注
目される。では支笏湖に、洞爺に、多数の参加を !!!

INFORMILO DE V.P.E.A., N-ro 17

LA NOVAJ USONAJ AERATAKOJ KONTRAŬ NORDA VJETNAMIO

ESTAS KONDAMNITAJ

La 2an de majo 1970, la Ministerio pri Eksteraj Aferoj de Vjetnama Demokratia Respubliko publikigis deklaron severe kondamnantan la usonajn aeratakojn en la provincoj Quang Binh kaj Nghe An.

Jen la integrala teksto de tiu dokumento:

La 1-an kaj 2-an de majo 1970, Usono sendis pli ol cent aviadilojn per pluraj grupoj por lanĉi grandskalajn atakojn kontraŭ multe loĝataj regionoj de la distriktoj Le Thuy, Quang Ninh (Quang Binh), kaj Nghia Dan, Dien Chau (Nghe An). La usonaj aviadiloj elĵetis centojn da eksplodbomboj, ŝrapnelbomboj, prokrastitaj bomboj kaj pafis multenombrajn raketojn, mortigante kaj vundante multenombrajn civilulojn, inter kiuj 20 infanoj.

Tiuj usonaj barbaraj militagoj konsistigas ekstreman maldelikatan atencan al la suvereneco kaj sekureco de Vjetnama Demokratia Respubliko, atencan al la usona promeso komplete ĉesigi sian bombardadon kontraŭ Norda Vjetnamio. Estas ne tolereblaj sangaj krimoj kontraŭ la vjetnama popolo. Estas ĉikaze ago pripense kulpata, samtempe kun la malkaŝa agreso kontraŭ Kamboĝo kaj la kaj la disvastigo de la milito al Hindocinio tuta, fare de Usono.

Tiuj usonaj militagoj kontraŭ la popolo de Vjetnama Demokratia Respubliko des pli nudigas la karakteron agresivan, ekstreme militeman kaj bstineman de la administracio Nixon; ili reliefigas la hipokritecon de la trompaj eldiroj pri "paco" kaj "bona volo", tiom ofte ripetataj de tiu administracio, kaj grave domagas al la Pariza Konferenco pri Vjetnamio.

Tiuj historiaj militagoj de Usono elmontras ilian pozicion de malvenko kaj ilian embarason, same kiel tiujn de iliaj agentoj en Suda Vjetnamio, Laolando kaj Kamboĝo, antaŭ laforto de la batalolidareco de la tri hindociniaj popoloj. Nenia usona militago kapablas forsavi Usonon el ilia lamenta fiasko en Suda Vjetnamio, same kiel en firman decidemon de la loĝantaro de Norda

Vjetnamio impulsis la produktadon, sin pretigi al batalo, frakasi ĉiujn novajn militaventurojn de Usono kaj plenumi ĉiujn devojn de la "granda ariero" rilate al la "granda fronto".

La Registaro de Vjetnama Demokratia Respubliko energie denuncas kaj severe kondamnas la krimajn militagojn de Usono; ĝi postulas, ke Usono tuj metu finon al ĉiuj atencoj kontraŭ la vuvereneco kaj sekureco de Vjetnama Demokratia Respubliko, kaj ilin tenas respondecaj pri ĉiuj konsekvencoj de ilia nova militeskalo.

LA ŜTATESTRO NORODOM SIHANUK publikigas la Politikan Programon de la Naciunuiga Fronto de Kamboĝo, la liston de la Politika Buroo de l'Fronto kaj la liston de la membroj de l'Nacia Solidara Registaro de la Reĝlando de Kamboĝo

Laŭ la reportero de Vjetnama Informagentejo en Pekino, matene de la 5a de majo 1970, Samdek Norodom Sihanuk, Ŝtatestro de la Reĝlando de Kamboĝo okazigis en Pekino preskonferencon, kiun partoprenis multenombraj ĵurnalistoj de Ĉinio kaj de fremdaj landoj.

En ĉi tiu preskonferenco, la Ŝtatestro Norodom Sihanuk solene publikigis la Politikan Programon de la Naciunuiga Fronto de Kamboĝo, unuanime aprobita de la Kongreso de Naciunuiga Fronto de Kamboĝo, kunveninta en Pekino dum du tagoj 3a kaj 4a de majo, kaj la liston de la Membroj de l'Politika Buroo de Naciunuiga Fronto de Kamboĝo.

Samtempe, la Ŝtatestro Norodom Sihanuk sciigis ankaŭ pri la starigo de la Nacia Solidara Registaro de la Reĝlando de Kamboĝo, sub la gvidado de Naciunuiga Fronto de Kamboĝo, kaj publikigis la Deklaracion de la Nacia Solidara Registaro de la Reĝlando de Kamboĝo kaj la liston de la Membroj de la Registaro.

La Politika Buroo de la Naciunuiga Fronto de Kamboĝo konsistas el: -Prezidento: PENN NOUTH;
-Membroj: CHAN SENG, Divizia generalo LUONG SAM ON, CHAN IURAN, CHIA SAN, HU IUN, HU NIM, HUOT SAMBATH, KHIEU SAMPHAN, SARIN CHHAK, THIOUNN MUNN.

Novajoj en Hokkajdo

いっぴりなる目立った動きはないし、くわしい報告もないが最近のようすは次の通り。

札幌 土曜例会（中央タイピスト学院）続行中。最近には吉原会長もたびたび顔を見せる。一方市内学生グループも各大学で動いている。北大はクラブ会館で毎金曜日夜集っている。

小樽 小樽ESP協会の例会、daŭras konstante. 場所はS-ro 山賀方。

千代 その後特に変わった事もないが、最近転勤して来たS-ro 津本（朝日新聞千代空港分室勤務）とS-ro 中里がもう少し何かやりたいと話し合っている。

苫小牧 4月25日より市公民館にて初等講習。初級読本使用。月3回月曜日16:00~18:00。当初5名からへって現在3名。progresintojは、これに加わって TEJA の Legomaterialo por ge-junuloj を読んでいる。

鶴川 S-ro 長岡宏昭の指導による小学生グループ、毎土曜日午後、児童会館にて。もう外国の samideanoj とり文通を始めた。

帯広 S-ro 衣己入院中（5月末）で、集会は行われていない。

Elstf-ino 渡辺桂子 5月2日結婚、又HEL-amino が一人へりました。新任所次の通り。

東京都世田谷区蒲田町177 玉川ハウス1号 本田桂子

FESS (Federacio de Espistaj Studentoj en Sapporo) 先号既報の
方に、北大、札大、藤越大、教育大の学生 Esp-istoj が加わり FESS を
結成、協力して計画、各校でピラ入札、説明会を行った。ピラ総数は
4000枚、今のところ北大以外では新会員がとくはないが、Informado の効果はあつた。

AL VI PROTESTON, MANIFESTON, KAJ NURAN ESTON DE MI FEMINISTO

Kamarado, ni trovas 2 seksojn sur la specio Homo, ekzistas la viro kaj la virino sur la historio, sed kial... ni devas dividi rigardi ilin je malsamaj?

Mi protestas. Ke Esperanto obstinas sin al la seksa koncepto el la pasea epoko.

Efektive la diferencon ni vidas inter ili. Sed, do, forigu pri la aĝo? Kaj dividon en la maldekstramanulon kaj la dekstramanulon? Ĉu bela aŭ ne, altekreska aŭ mal'alta, drinkema aŭ abstinema, dolĉaĵulo aŭ amaraĵulo, radikala aŭ reaktia aŭ ne-politika, ktp.. Troviĝas multe da faktoroj por kategorii nin....

Ĉu vi diras ke ili ne tiel havas sencon kompare la distingon pri la seksoj? Mi protestas. Se vi temas la seksan aferon, tiam vi prave faru la distingon. Tamen ĝi ne ĉiam bezoniĝas en aliaj kazoj.

Konsideru ankaŭ ke ni Nihonanoj, pro nia--aŭ de niaj antaŭuloj--pligravigo de la socia kaj familia rangoj, posedas la titolojn(?) kun esprimo pri la rango sur nia nomo, pliguste, nur tiam ni posedas. Tio ebligas ke ni ne erare impertinentu kontraŭ niaj eminentuloj, kaj aliflanke mal'ebligas al ni kontaktigon nekoloritan, t.n. je homo al homo kaj lige fiksis niajn ekpensojn en la nunan socian ordon.

Ĉu vi rimarkas? lastatempe la junuloj, malŝatante tiajn formalismajn kaj aŭtoritatismajn titoligojn, preferas kaj ŝerce uzas jenajn por, ekzemple, S-ro SATOO: SATOO-ŝi, SATOO-sensej, SATOO-ŝensej, SATOO-dono, SATOO-ĉan, SATOO-kun, kaj SATOO, eĉ se tiu estas t.n. supera al la parolantoj aŭ ne. Ĉe ĉi tia titoligo ni jame ne trovas ian esprimon de la estimo, nek de la intimo, sed nur la voknomojn. Do, ili je sia esenco distancas for de la tiaj uzataj de la plen'aguloj.

Same ni devas diri pri la seksa titoligo en Esperanto (ankaŭ en aliaj Eŭropaj lingvoj): Ni devas voki la homojn, laŭ la seksa eco de tiu, je sinjoro, sinjorino, fraŭlino, aŭ kamarado aŭ kamaradino, aŭ plie dividi paroli la Esperantiston kaj la Esperantistinon, kontoriston kaj kontoristinon. Ĉi tia sinteno portas al ni oportunon, dank'al kio ni ne eraras konduti konforme al koncernata homo, almenaŭ en la seksa sfero. Sed ĝi

devigas nin senkonscie kompreni la tuton de la homo el tia vidpunkto.

Forigu tian konservisman sintenon. Antaŭ esti viro, antaŭ esti virino, antaŭ esti virgulino, vi estas homo, Esperantisto.

Kamarado, se vi bezonas tian distingon en ia kazo, tiam vi faru ĝin por tiu kazo. Sed konstatu ke tio validu nur tiam. Samkiel ni faras apartigon en Esperantiston kaj ne-Esperantiston nur por tiama bezono. Sed la nuna Esperanto ne permesas al ni tion....

Ĉu vi konas mian amikinon Rav FLIKKA? kun kiu mi foje parolas mian ekziston kaj morton, kverelas kontraŭ respektivaj ideoj. Iam mi konklude argumentis post sufiĉa vigla babilo: Laŭ mi vi pasigas gravan punkton. Ni ja ne nur estas sub opreso de la politika potenco aŭ reĝa reĝo, sed ankaŭ katenitas de ne konsciita de ni mem kultura jugo, de la moralo, la tradicio, la religio, la nacieco, t.e. de aglutino de nia penso-maniero, ĉu ne, kamaradino? Ŝia ironia rediro: Bone. Ŝajne vi trafas, mia virkamarado.

Ekde tiu momento mi ĉesas elparoli la "kamaradino"-n, timante ŝian mokeman rideton kaj hontante mian internan mal'akordon pri la diro kaj la konduto...

Ĉi tie kap-klara Rav, kaj ankaŭ mi, iome pli mal'akra ol ŝi, vidasabsurdan strukturon de la seksodistinga kutimo.

Kion, efektive, mi parolu se mi volas eltiri la virinon el ŝia amikeco? "amikino"? Sed ŝi ne estas "ino de amiko", "ino kun amikeco", aŭ "amika ino", sed ja "amiko de ino", "amiko kun ineco", aŭ "amiko ina", tion ni asertas. Plie, ĉu ni respondigu "amikino"-n al "virin'amiko"? Tio ne eblas, se ni temas la logikon. Ni devas diri, nia Zamenhof estas unu ordinara Eŭropano en ĉi tiu punkto malgraŭ siaj superaj idealo kaj laboro.

Mi manifestas: Ŝi estas al mi amiko kaj nin'amiko. Mi al ŝi estas amiko kaj vir'amiko. Ŝi kaj mi estas amikoj, kaj samtempe geamikoj. Tion oni skribos en la Esperanta lernolibro...

Nun kamarado--eĉ se vi apartenas al la 2-A SEKSO--, la kulturo evoluos per sencese klopodataj provoj de amaso da malfortaj individuoj, kio formas la fluon de la socio al la futura kulturo, tion oni diras. Tiuj individuoj ja estas ni, la Esperantanoj, ĵetintaj la

iluzion kontraŭ la ordo kaj la moralo, kaj trovantaj la valoron nur en nia propra aktive.

Do, same ĵetu la mallogikon el nia Zamenhofa lingvo, liberigu nian animon for de la seksa kateno. La sinjorinoj iĝu je la sinjoroj, la fraŭlinoj iĝu je la sinjoroj, kaj la kamaradinoj iĝu je la kamaradoj, la Esperantaninoj je la Esperantanoj. Ĉar la viro kaj la nino estas nuraj ecoj, kio distribuiĝas, kun probable de ĉ. 50%, al la homoj esence similaj k analogeĵ inter si.

Kaj...se vi viras en via volo, kaj se mi maturas por mia movado, nun al ni naskiĝos nova naturo for de la nacieco, Rav parolas al mi sub obskure sunlumo en junio.

MACUOKA Kooĝi.

P.S. Kial ni preferu (nino)-n ol (ino)-n, tio simplas: La 2-literaj radikoj ofte embarasas kaj erarigas nin, kiam ili konsistigas la kunmetojn. Pruvu en via vortarlibro ke ni havas multen da vortoj komencataj per (in-), aŭ finitaj per (-in-), sed ne tiel pri (nin-), mi petas. *** *** *** *** *** ***

PLENA SUKCESO DE LA PLEJALTGRADA KONFERENCO DE LA HINDOĈINAJ POPOLOJ

===INFORMILO DE VPEA N-ro 16.

La plejaltgrada Konferenco de la Hinduĉiniaj popoloj okazis de la 24a ĝis la 25a de aprilo 1970, laŭ la iniciato de Samdek Noredom Sihanuk, ŝtatestro de Kamboĝo kaj Prezidanto de Naciunuiĝa Fronto de Kamboĝo, en iu loko de la landlimo de Laolando-Vjetnamio-Ĉinio. La tri hinduĉiniaj popoloj estis reprezentataj en la konferenco de kvar delegacioj, estrataj de Samdek Noredom Sihanuk (Kamboĝo), Lia Moŝto Princo Sufanuvon (Laolando), Ĉefministro Pham Van Dong (VDR), Mag. Nguyen Huu Tho (Suda Vjetnamio).

La Konferenco, post interŝanĝo de opinioj, alvenis al unuanima aprezado pri la nuna situacio en Hinduĉinio kaj pri la lukto de la tri hinduĉiniaj popoloj kontraŭ la komuna malamiko, la usonaj imperiistoj-agresantoj kaj ties lakeoj. La komuna Deklaracio konklude tekstas:

"Antaŭ la perfidaj manovroj de Usono, kiu per "la doktrino de Nixon" intencas bataligi la Azianojn kontraŭ Azianoj, semi la malkonkordon, inciti sovini-
majn malamojn inter la tri popoloj Kmera, Lao kaj Vjetnama, la Konferenco alvokas la tri popolojn esti pli singardemaj, plifortigi sian solidarecon, inten-
sigi la batalon kontraŭ la komuna malamiko,- la usona kaj ties lakeoj en la tri landoj,- ĝis kompleta venko.

Inspirite de la principo, ke liverigo kaj defendo de ĉiu lando estas verko de ĝia popolo, la diversaj partioj promesas fari sian eblon por alporti al si reciprokan subtenon laŭ la bezonoj de la interesata partio, kaj surbaze de reciproka respekto.

La partioj asertas sian decidemon antaŭgardi kaj dis-
volvigi la fratan amikecon kaj la rilatojn de bona najbareco inter la tri landoj, por sin subteni unu la alian en la lukto kontraŭ la komuna malamiko, same-
kiel per kooperi en estonto kaj por longa tempodaŭro en la konstruado de ĉiu lando, laŭ la vojo propra al ĉiu. Pri la rilatoj inter la tri landoj, la partioj decidoplenas apliki la kvin principojn de paca kun-
ekzistado ; reciproka respekto de la suvereneco kaj teritoria integreco; ne agreso; reciproka respekto de la politika regimo de ĉiu kaj ne-enmiksiĝo en ies internajn aferojn; reciprokaj egalrajteco kaj avantaĝoj ; paca kunekzistado. La partioj respektas la fundamentajn principojn de la Ĝenevaj Interkonsentoj de 1954 pri Hinduĉinio, agnoskas kaj promesas respekti la teri-
ria integrecon de Kambogo en ties aktualaj landlimoj; respektas la Ĝenevaj Interkonsentojn de 1962 pri Laolando. La partioj certigas, ke ĉiuj problemoj estigotaj en la rilatoj inter la tri landoj povos sin solvi per negocadoj en spirito de reciproka respekto, reciproka kompreno kaj interhelpo. --- --- ---

La Konferenco estimas, ke la nuna situacio estas pli ol iam favora al la hinduĉiniaj popoloj en ties lukto kontraŭ la usona agreso por la nacia savo. Neniam la usonaj imperiistoj konis tiom da fiaskoj, tiom da malfaciloj, kaj estis tiom grave malfortigintaj kaj izolitaj ol je tia ĉi horo. La hinduĉiniaj popoloj luktas por justa kaŭzo, ili havas ĝustan linion, ili ---. La Konferenco esprimas sian firman konvinkon, ke--
la tri popoloj--konkeros neeviteble kompletan triumfon".

KASRAPORTO de HEL

① 前回 (N-ro 41, '70 APR.) 報告 107,720^円

内訳 小樽振替 25,249

〃 定期 80,000

苫小牧郵貯 2,471

収入

会費

札幌ESP会 900^円

'69年分 福士 羅士

'70年分 アリマヨシハル

木村 喜任治

苫小牧ESP会 2,100^円

'69, '70年分 木村 洋子

小林 二男

'70年分 星田 淳

星田 文子

末沢 邦夫

室蘭ESP会 1,500

'66~'70年分 平田 岩雄

② 収入計 4,500^円

支出

孔版用紙 2包 } (LEONTODO)
模造紙 } N-ro 41 分 } 1,700^円

孔版原紙 }
タイフ原紙 } 210

LEONTODO N-ro 41 }
郵送料 } 1,185

振替掛込料金 35

③ 支出計 3,130^円

'70年6月30日現在

①+②-③ = 109,090^円

内訳

小樽振替 26,114

〃 定期 80,000

苫小牧郵貯 2,976

支笏湖畔でのイスパント合宿

のおしらせ

北大イスパノ本運動主催

(期間) 8月4日(火)午後~8日(土)午前 (4泊5日)

(場所) 支笏湖畔・北大支笏寮 (費用) 食費程度(約1500円)

(内容) 1. 基本文法 2. 日常化作業 さくこく はなすこと かさとり 暗唱
3. 理論—文法と運動 4. 発表 別の個性を展開せよ!
4. 特別講議(一ごらかつけは)

(準備) テキストはだいたい主催者が用意しますが、参加者は"日エス
会話練習帳(大修書林250円)" "エロシェンコ短編集(同、450円)" をある程度
読み、精参して下さい。初めての方は"新エスペラント講座"(零文社
350円)程度を学習しておいた方が楽です。

ENHAVO DE N-ro 42.

La 34-a Hokkaido Kongreso en Toopu (才34回北海道エスペラント大会 御案内)	1
TEJA ツェツ合宿に参加して	2
TEJA—音講習会の成果と教訓	4
雑 感	6
INFORMILO DE V.P.E.A. N-ro 17.	8
Novajoj en Hokkaido	10
AL VI PROTESTON, MANIFESTON, ---- DE MI FEMINISTO	11
INFORMILO DE V.P.E.A. N-ro 16	13
KASRAPORTO DE HEL	15
支笏湖畔でのエスペラント合宿のおしらせ	15
ENHAVO DE N-ro 42	16

LEON TODO

N-ro 42
1970年6月

発行

北海道エスペラント連盟

047 小樽市花園3-8-13 山賀眼科内

編集印刷

苫小牧事務局: 053 苫小牧市王子西部3区94号